

The Open Group MUNICH Conference ハイライト 第三日目

* 開催日時: 2008 年 10 月 20 日 (月) ~ 10 月 22 日 (水)

* 開催場所: Arabella Sheraton Grand Hotel Munchen

* OPEN GROUP Conference in MUNICH

<http://www.opengroup.org/munich2008/>

<第3日目ハイライト>

第3日目は、下記の分科会が開催された。

Professional Development、EA Best Practices、SOA and Identity Management、
TOGAF、EA & Business Architecture、SOA and EA、EA & Business Value

Professional Developmentトラックでは、Shella Thorne 氏、Worldwide IT profession Leader、IBM が“Speed Mentoring”というテーマで講演した。氏は、良き指導者の役割は信頼される相談相手である。良き相談相手を見つけるには、見つける前に自身の目標を明確にし、評価するのが最善の方法である。自己評価は、あなたの強み、弱み、好き、嫌いを明確にし、およびリスクに対する寛容度を評価する。それから、あなたは短期と長期の目標とあなたの関心や望むことを明確にする。最も大切な事は、あなたはあなたの関心事を人々の話にすれば、彼らはあなたに良い成果を与えてくれる。そしてまた、あなたの行動を止める社内の障害を明確にすることは大変有益で、何故ならばそのことはあなたの目標を達成することに繋がるからである。あなたがあなたに関するこれらの事柄を一旦明確にすれば、良き相談相手にコンタクトすることは簡単であり、人々に助言を頼める。その後のディスカッションは、The Open Group 内でプロフェッショナルの育成をどうやってやるか、また若いプロフェッショナルや女性をどうやってコンファレンスに引きつけるか、また若いプロフェッショナルのキャリアをどうやって伸ばすかに集中した。

SOA and Identity Managementトラックでは、Stuart Boardman 氏、Director of Consulting、CGI, Netherland が“A Service Oriented Approach to User Provisioning–Unexpected Architectural Challenges”というテーマで講演した。時間がたつにつれて、ユーザ側の対応策は益々複雑になってきている。もはや、ユーザを識別するためにユーザ・ネームやユーザ ID、パスワード、アドレスを使用だけでは十分でない。対応策についての需要は、どんな対応策でなければならないか、それに何を含めるべきか、どう対応すべきかに拡大し、今は特定のテクノロジーで単に対応している。

識別 (Identity) の考え方は、名前だけでなく、ユーザの識別のためのパーソナライズされた内容を含めるところまで拡大されている。アーキテクチャ的な観点からすると、この種の情報について意思決定することは大切であり、それがどのように使用されているか、それがインフラの中の何処にあるかと共に、対応策として効果があるのかどうかということである。重要な事柄は次のことである：解決すべき問題はあるのは事実だが、しかし、それに対する決め手は無い；識別を対応策から切り離すことは可能である；いくつかの情報は、コア・ビジネス・システムの外、他のプロバイダからも取ることができるを受け入れなければならない；そして、そのプロバイダと仕事をする際には、相互に信頼が築かれなければならない。

EA Best Practicesトラックでは、Rajaram Venkataramani 氏、Technology Consulting Group、Banking & Financial Services が“Enterprise Architecture Consultancy in Practice”というテーマで講演した。“何故、EA のコンサルタントなのか？”氏によれば、エンタープライズ・アーキテクチャのためにコンサルタントを利用することは手助けになる。何故なら、彼らはドメインにつての強い知識を持っており、一方カスタマにはない、そしてコンサルタントは、新しい観点からの手法をもたらしてくれる。

企業は、いくつかの理由でエンタープライズ・アーキテクチャを外部委託する：移行計画の策定やソリューション・アーキテクチャをエンタープライズ・アーキテクチャ・ビジョンと整合性をとったり、テクノロジーの選択の際に手助けを受ける。氏は、2～3のケースを例示し、コンサルタントが如何にして企業の問題点を明確にし、企業の問題点に対して解決する手助けをしているかを示した；ガバナンス・モデリングを行う；企業のアーキテクチャを策定する；トレイド・オペレーションやレガシー・アプリケーションの移行などの特定のオペレーションのためのフレームワークを作る。アーキテクチャをアプローチする際には、コンサルタントは、いつも企業診断から定義付け、計画策定のプロセスを通して行い、そしてソリューションを作り、その効果を立証するために、組織のステークホルダや問題点、プロジェクトのスコープを理解しなければならない。

Professional Developmentトラックでは、James de Raeve 氏、VP Certification、The Open Group が IT Architect Certification Q&A セッションのホストを務め、議論は、如何にして個人の認証と認証プロセスの準備を事前評価するのに集中した。ITAC 認証では、認証パッケージの完成度合をベースに行い、従って受験者が集中的なインタビュー・プロセスを旨く行くように社内のレビューを行う必要がある。

認証の利点は、その人の経験やキャリアなどが外部の検証を得ることである。The Open Group はまた、その人の能力の観点を外部から見ての評価基準がどうなのか、その意味から The Open Group の Board としては試験でなく、インタビューを選択した。

インタビュー・プロセスをパスした人々の成功率は、The Open Group が直接行った分では 80%である。

午後の SOA and EA トラックでは、Andreas Freitag 氏、Consultant、Detecon International、Germany が "Drive SOA Migration Roadmap through Financial Parameters" というテーマでケース・スタディの紹介で始まった。氏の前提は、アーキテクチャのために財務的パラメーターを使用するのは、買収した組織のプロジェクトに対して非常に有効である。氏は、Deutsche Telekom 社における CRM プロジェクトの概要を説明した際のケース・スタディを使い、プロジェクト・チームは事業部横断的に、IT、コントローラー、エンタープライズ・アーキテクトのような専門家の代表者であった。

エンタープライズ・アーキテクチャの分類方法を使用して、プロセスを通して異なる部門の相互のコミュニケーションと理解を得た。コストの割り振りとマッピングおよびプロジェクトのためのベンチマークを使用し、彼らは目標のシナリオに沿って、実行コストと節約の可能性を含めた財務上の評価と意思決定の準備をすることができた。氏は、今後エンタープライズ・アーキテクチャ・プロジェクトでフィナンシャル・アーキテクチャを使用することは益々重要になると信じているという。適切なエンタープライズ・アーキテクチャのコントロール・モデルの実行は、企業全体に SOA の可能性をもたらす前兆にすることができる。結論の議論として、コンサルタントにより実施されているプロジェクトに対して、社内のコストを決めることはしばしば難しいと、いう意見であった。

午後の EA & Business Architecture トラックでは、Maarten Waag 氏、Senior Enterprise Architect, Capgemini, Netherlands が "Value of Business Architecture for the Dutch Immigration Agency" のテーマで講演した。氏は、過去 2 年間にわたる "Dutch Immigration and Naturalization Department (IND)" における事例を紹介した。IND は、15 ヲ所、3,000 名の職員を持ち、年間オランダへの約 40 万件の入国申請がある。このプロジェクトの目的は、組織をより効果的、効率的、顧客中心的に変えることである。アーキテクチャ策定の目的は、組織目標を明確にし、プロジェクトは IT アーキテクチャよりもビジネス・アーキテクチャを策定するのに焦点を当てた。

プロジェクトを始めた後、IND が当初決めた 3 つの目的に加えて、彼らは敏捷性 (Agility) に焦点を当てた。より良い顧客サービスを実現するためには、IND は情報のサイロから脱し、顧客ベースに対してセグメント化したマルチチャンネル戦略を採用し、国内の他のエージェントとのより良いコミュニケーションをもつ必要があった。使命やビジョン、戦略をもとに、IND は組織内のプロセスの標準化や簡素化を行うと共に、組織内のプロセス・コントロールを行わねばならなかった。IND のビジネス・アーキテクチャを設定し

た後、彼等は IND の情報システムに対して同じプリンシプルを適用することができ、同時に最後にはビジネス・アーキテクチャはガバナンスの手段になり、それにより IND は、組織変更のための意思決定を明確にすることができた。

その後の SOAトラックでは、Arnold van Overeem 氏、Global Architect, Capgemini, Netherlands が”Identity Management Interoperability in the European Union”のテーマで事例を紹介した。このトラックでは、EU (European Union) 内の Identity の相互運用性について焦点が当てられた。EU は 27 の加盟諸国、23 の公式言語、27 のリーガル・フレームワーク、約5億の住民がいる。各加盟諸国は、様々な官公庁がレガシー・システムを持ち、相互に自国内および各国間で難題のために相互運用性をもってコミュニケーションする必要がある。現在、エレクトロニクス ID (eIDs) は EU 諸国では発行していない、理由は各国は EU が各加盟国の官民の人々に eIDs を発行し、EU 全体のシステムを導入する必要があるからである。

eID プログラム実行の問題点は、現在の法律が決めてとなるべき適切な信頼レベルを可能にする登録の条件を妨げるだろう。もう一つの問題は、夫々の国が異なる Identity の概念を持ち、ある国は Identity は個人が所有すべきであり、また別の国では国が決めるべきであると考えている。このように、両方の意見が国の市民にとっては困難がある。何故ならば、ヨーロッパは Identity の考え方で大きく2分されていて、eIDs を実現するためにはこのことについて合意形成がなさねばならない。氏は、ビジネス・アーキテクチャ無しでは eIDs プログラムの成功はないと、いう。

この日の最後の EA Developmentトラックでは、Thomas Obitz 氏、Principal Architect, Strategic Technology & Architecture Consulting, Infosys Technologies, Germany が”Key Results of the Enterprise Architecture Survey 2008”のテーマで講演した。Infosys は、エンタープライズ・アーキテクトの調査を毎年行い、彼らが如何にしてエンタープライズ・アーキテクチャを実施しているかを調査している。当社は、業種横断的に 173 のアーキテクトおよび IT 意思決定者にアンケートしている。大部分の企業は、明確なビジネスと IT の整合性を持ち、プロセス改善を行い、柔軟性を持ち、エンタープライズ・アーキテクチャを最高峰を目指している。これらの調査によると、エンタープライズ・アーキテクトは企業の中でアドバイザーとして受け入れられ、多くの企業は専任のアーキテクチャ部門を持っている。サーベイの重要なハイライトは以下の通りである：

○エンタープライズ・アーキテクチャ・チームの 43%は、戦略的ビジネス計画策定の役割を果たしている。

○エンタープライズ・アーキテクトの 59%は自身で自由裁量の予算を持っている。

○エンタープライズ・アーキテクトは彼らの時間の大部分を使っている。

情報収集:26%、アプリケーション・アーキテクチャ:25%、ビジネス:16%、

インテグレーション:16%

○報告された 71%が彼らの最も重要な成果物は IT 戦略である。

○エンタープライズ・アーキテクトの重要または優先度の高い仕事は、

インテグレーション:67%、SOA:67%、セキュリティ&Identity

Management:58%

○TOGAF は最も広く採用されているアーキテクチャ・フレームワークであり、調査対象の中で TOGAF を使用している企業は 32%である。

○72%の企業が自身のニーズのために、フレームワークをカスタムしている。

最後に、エンタープライズ・アーキテクチャへのチャレンジを続けて行く正当性として、

・チームの 61%が EA への投資は正当化できる、という。しかし、それらの EA 投資の妥当性を決める基準を使用すべきである。

AOGEA ニュースとして、今週のミュヘン・コンファレンスでヨーロッパの AOGEA が発足した。また、月曜日に当コンファレンスで Central Germany Chapter が発足し、月曜日の夕刻最初の会議が行われた。20 名が出席し、オフィサーが選出された。

Central Germany Chapter の創始者は、Mark Oliver 氏で、ドイツの Ludwigshafen に拠点が置かれる。Central Germany Chapter については、下記をお尋ね下さい。

<http://www.aogea.org/membership/ViewChapter?id=100009>

以 上